

企業OBに助け合いによる生活支援活動への参加をうながすにはどうすればよいか

提言

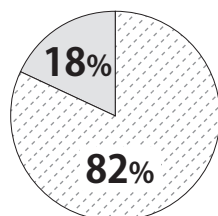
すべての企業OBが直面する退職後の長い在宅時間。生活支援等の地域活動参加は、つながりをつくり、いきがいに変わってくれます。地域包括単位で、セミナー等を開き、課題を知り、感じ取り、行動に移す筋道が必要です。そのアクションなくして、日本社会の未来はありません！

登壇者

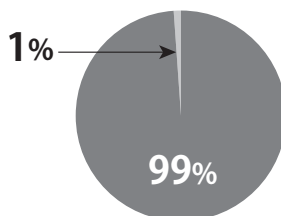
- 【進行役】 中村 順子氏 (認定特非) コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
 【アドバイザー】 奥山 俊一氏 (認定特非) プラチナ・ギルドの会理事長
 勝部 麗子氏 (社福) 豊中市社会福祉協議会事務局長
 小暮 航氏 (特非) ワーカーズコープ、広島市「協同労働」プラットフォーム統括コーディネーター
 渋谷 雅人氏 (認定特非) 全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事、(一社) 全国レガシーギフト協会事務局次長
 中村 能彦氏 すまいるワーク事務局長

アンケートの結果 参加者概数：192名 回答者数：114名

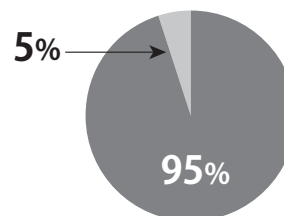
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



■ 議事要旨 中村 順子氏

大阪、神奈川、東京サミットと連続3回にわたり同一テーマを追ってきた。登壇者は、企業OBを支援する中間支援組織である社会福祉協議会、ワーカーズコープ、特定テーマや表彰による中間支援が4名、実践者が1名で構成された。

この間明らかになったのは、企業OBが直接個人で地域の生活支援の場に参入するには壁があり、中間のマッチング機関の柔軟なコーディネートがその進捗を左右する実態であった。今回きっかけづくり、媒体の開発、仕組み、評価等のプロセスにおける工夫が登壇者から存分に提供され、示唆に富む分科会となった。

○勝部麗子氏（豊中市社会福祉協議会）からは、都市型農園「豊中めぐり」を設置することで、男性の居場所と役割が見えてきた。現在8か所で約150名が、農作物の生産から収穫、加工、販売までを担い、地域の子ども達、認知症の方、外国人ともつながり、認め合い、ささえあう交流ができています。どうすれば野菜が他人の役に立つか、どうすれば売れるか…生産者の立場を理解し、生活者の視点が備わることで生活支援の有力な部隊「福祉便利屋」ともなってきた。毎月の運営委員会や対外的な取り組みなどは機関会議で組織的に対応している。課題の解決は常に新たなつながりで解決し、競争社会から共生社会への価値転換が農園を媒体に図られるようになってきている。

○小暮航氏（ワーカーズコープ）はリモート出演となったが、「広島市協同労働プラットフォーム事業」の多彩な事例が示された。出資、経営、労働を一人一票の原則のもと何事も話し合いで決定し、人とお金が地域内で循環することを目指している。現在28団体300人以上が生活支援やサロン・食・子ども支援等の地域課題解決の活動

をしており、自治会からの委託もある。広島市のリードによりスタートして7年になるが、企業人のチームマネジメントや経営感覚が役に立ち、雇われない働き方として注目されている。

○中村能彦氏は、広島ワーカーズの一つ「すまいるワーク」の事務局長として2016年設立来活動。きっかけは地区ソフトボール部での活動、自治会参加、「広島市協同労働プラットフォーム事業」勉強会を経ていくうちに、限界集落への不安と自治会の限界を感じ、ワーカーズの立上げを決意。庭木剪定、農地管理、小さな農業、公園管理等の事業に加え定例サロンで仲間と交流し、住民からは「老後も安心して住んでいける」と、感謝と数えきれない「ありがとう」で元気満載の報告。

○渋谷雅人氏（全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事）からは、子ども食堂での個人的な体験を私達のストーリーにするため、50歳で早期退職し、ファンドレイジングの学びや子ども食堂の運営に関わった経過と、誰も取りこぼさない社会づくりへの強い思いが語られた。子ども食堂はつながりづくり、企業は利益・利便提供と目的は異なるが、企画、営業、マーケティング、会計、総務、広報の経験やスキルは、地域活動で大いに役立ち重宝されている。自分が切り替わるスイッチを見つけるため現場に出向いてほしいと締めくくった。

最後に奥山俊一氏（プラチナ・ギルドの会理事長）から、総括的なアドバイスとして、会社はこの10年来変わっていないが、地域は人口減・高齢化・コロナ禍などで変わらざるを得なく、大きく変化している。できるだけ早く地域と関わりを持ち共生社会の実現を共有したい、とメッセージがおくられ、左の提言を全体で確認した。

■ 寄せられた声から

- 素晴らしい内容でした。課題がはっきり見えて、得るものの多い分科会、ありがとうございました。
- 大阪大会の時から、皆さんの活動が更に発展しつづけている事に感動しました。
- 男性に定年後に地域での社会参加にどのようにして入ってきてもらうか、そのきっかけづくりに日々模索しています。カフェやおしゃべりの場ではなく、身体を動かせる活動的なことを考えているので、本日の内容は勉強になりました。
- 「企業の人」を、いかに「地域で活動できる人」に育てる（スライドできる）かの大切さを学びました。「人」も「地域」もハッピーを目指したい。